

2021年度 書朋毛筆部 昇段試験を終えて

公益社団法人滋賀県書道協会 理事長 神田 浩

「大雪」、「コロナ禍」という厳しい状況の中、多くの皆様が挑戦して下さいましたことに敬意を表します。結果は別表の通りです。以下、各段審査担当の審査評を掲載します。今後の学習の参考にして下さい。

初段(神戸・前田)

全ての書体に共通して言えることですが、線の太細の変化に乏しく、自信をもって書けていないものが目立ちました。墨量が足りないものも多くありました。基本的な筆遣い(筆のバネを使う)ができていないものが多くありました。また、実用書を書く場合は全体の配置、字形、文字の大小などに再検討すべき点がありました。創作ではふだん書いておられないのではないかとと思われるものが目立ちました。全部門を毎月練習されることをお勧めします。

2段(金澤・今井)

合格された方は全部門が平均的によく書かれていました。ふだんから月例競書課題をしっかりと学習されているのだろうと感じました。残念ながら不合格の方は、墨量が不足しているため動きがなく、作品の見映えが自信のないものとなっているように思います。隷書・楷書・行草書の学習では、古典の特徴をしっかりと捉え、基本的な筆遣いの学習をして下さい。仮名は基本的な線の訓練、変体仮名の字形をしっかりと覚えて下さい。創作は墨量の変化、余白の変化、線の多様性など考えて作成して下さい。

3段(古迫)

漢字作品は楷書・隷書・行草書ともに形に気を取られて筆勢が足りないものが多く残念でした。造像記の力強さ、張遷碑の伸びやかさなどの表現をさらに研究して下さい。仮名についてもさらに筆を立てて先を効かせた冴えた線で書けるよう取り組んで欲しいです。

創作はただ大きく書いたものや墨色に頼って線に気持ちが入っていないものが多く、今一度創作の原点に立ち返り、何を書きたいのかを心に持ち、思い切った紙にぶつかるような作品を期待します。

4段(藤居)

漢字の臨書については、それぞれの古典の持つ特徴を理解した上で、それを強調するぐらいの意識で書かれた作品が審査においても魅力を感じます。なんとなく形を

似せているというレベルでは、例えば楷書ではただお習字的なもの、隷書や行草書では伸びやかさに欠けるものとなってしまいます。ふだんから書朋の各ページをよく学習され、「線質を練る」ことを望みます。

仮名の臨書については、行草書にも通じることですが、どの文字のどの部分を書いているか、実画なのか虚画なのかということを引きちんと理解した上で制作に臨まれるとよいと思います。

創作については、前述の線質がよく練られたものや、臨書で学習した余白の意識などが効果的に生かされたものが良品として認められます。用具用材の工夫も大切な要素ですが、そればかりにならずに、文字と相乗効果を高めるようなものになる工夫・研究が必要です。

5段(三原)

総体的にはほぼ日頃のご出品の通りの成績で、日頃からまんべんなくご出品頂けるようにお願いします。

仮名の出品でやや縮み気味の作品が散見され、日頃から半切への挑戦をしていただけるようお願いいたします。

賞状は縮み気味の方と文字が多すぎる方の両方がありました。全体の配置にご留意下さい。

創作は日頃の努力がそのまま作品に表れていたように思います。漢字は行草書と楷書に練習不足が散見されました。

6段(押谷)

漢字は楷書に迫力ある力作が多く見られました。隷書・行草書については線質の変化に乏しく抑揚のない平板な臨書が目立ったのが残念です。

大字仮名に不慣れと見受けられる作品が散見されました。墨の濃度や筆の選択などに気を配ってほしいと思いました。

実用書は丁寧な書きぶりで好感の持てる作品が多く感じました。文字大、配字については実物の賞状をよく見て研究されることをお勧めします。また、全体に起筆の突き込みが不足し、弱々しく見えるものも見られました。

令和3年度毛筆昇段試験結果

段位	受験者数	合格者数
師範	72	10
準師範		30
6段	63	23
5段	63	30
4段	83	46
3段	72	49
2段	64	47
初段	100	87
計	517	322

創作では、多字数の作品に変化や工夫に富んだ良作がありました。少字数大字作品は墨色や紙質にだけ頼って、書きつ放し的な大味な作品が多々見られました。完結していない文言などもあって、字句を選ばれる際は気をつけて頂きたいです。

師範(神田・生田)

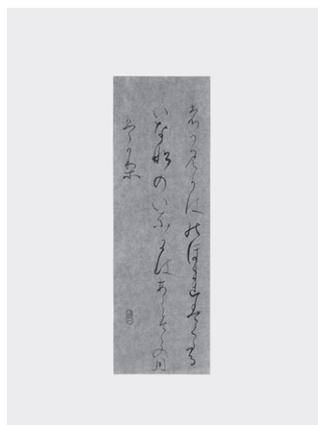
難関の師範試験に挑戦された皆様、お疲れ様でした。審査をさせていただき、改めて「その場で書く」という師範試験に臨むためには、やはり主体的に準備に取り組む姿勢が必要だと実感いたしました。新しいテキストが届いた時に、「どう書こう」と思っ取り組んで来られた方の作品と、今まで通り指導者の先生のお手本をまねるだけの取り組み方をされた方の作品では、かなり差が出てきます。せっかく、大変な試験にチャレンジしていただくのですから、毎月が師範試験の「模擬試験」だと思っ取り組んでみられてはいかがでしょうか。また、新しい書の楽しさが現れそうな気がします。

各部門の寸評です。漢字部は、楷書・行草書・隷書ともよく書かれていた作品が多く見られました。創作については、用具・用材を工夫した作品が多かったのですが、やはり制作の主体は線質であるという観点が抜けているものも目につき、残念でした。仮名作品については、全体的に書き込み量が少ないと思われる作品が目立ちました。実用書については、レイアウトの工夫が必要な作品が多かったように思います。また、毛筆の良さを表現出来た作品が少なかつたように感じました。師範に合格された皆様、おめでとうございます。さあ、今からが始まりです。指導者を目指される方・公募展に出品される方、それぞれの書の世界をどんどん広げて行って下さい。師範優秀者表彰もぜひ目指して下さい。皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

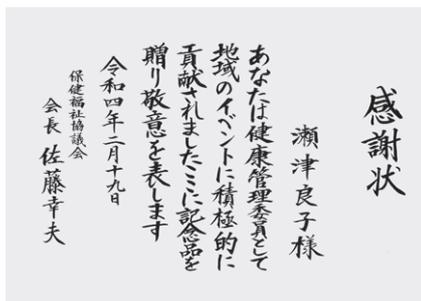
師範合格者 優秀作品



▶田辺 哲也



▲藤野 純一



▲瀬津 良子



▲伊賀 好美



▲福井 芳子



▲中江 恵子